



## 学年交流会と教員研修会を通して

### つながりを深め、互いに伸びる補習校に



幼稚園と中3の交流会

現地校の新学期が始まり、少々緊張した日々が続いたのでしょいか、先週朝の登校の様子は、あくびを押し殺し、涙目で挨拶をしていた子どもが何人かいました。それでも、昼休みに行われた学年交流会では、どの子ども実にも楽しそうに遊んでいました。

幼稚園と中3の交流会では、折り紙で手裏剣づくりが行われました。中3生が園児達の側によって、丁寧に作り方を教えている様子は実に微笑ましいものです。昼休み直前に降り出した雨で教室

や廊下での学年交流会となった学年では、いすとりゲームや「だるまさんが転んだ」などが行われ、子どもたちの歓声と笑顔が溢れていました。日本の学校では、異学年の交流会・合同遠足などの行事や日常の縦割り清掃、集団登校など、子ども同士の「つながり」を大切にした取り組みが盛んですが、ここマイアミ補習校も、先生方も参加されるこの学年交流会が、大変貴重な時間となっています。「頼もしいお兄さん、お姉さん」「可愛い弟達、妹達」の一体感が補習校で育ってくれる事を願っています。次回は、12月3日です。

さて、先生方も互いに教員研修を通した「つながり」を大切にして仕事に取り組んでおられます。先々週と先週の2日間にわたり、先生方同士の「見せ合う授業」を行いました。年間42日という限られた授業日にあって、日本と同じ指導内容を教える事は、補習校の最大の課題で、本補習校でも、授業参観を通して先生方と研修を深めています。子どもたちが「考えた」「分かった」「楽しかった」と思えるような授業をするには、先生方の教材への深い理解と指導技術と子どもへの粘り強い指導が必要です。幼・低、中、高学年・専科(中学部)に分かれた先生方が、互いの授業を参観し、自分の授業に役立たせるのが「見せ合う授業」の教員研修でした。私も全学年参観しましたが、どの学年も指導案をきっちりと立て、資料を用意され、子どもたちが活躍する場面を数多く作る工夫されていました。

本日は、全先生方が参加する研究授業が行われます。小学4年の立松学級にて放課後6時間目、国語「カンジーはかせの漢字しりとり」の学習をします。子どもたちに「親しめる漢字学習」としてどう指導するか、この教員研修を通して先生方とともに考えていきたい 幼・小1・小2の「見せ合う授業」 と思います。保護者の皆様方には、教員研修へのご理解を賜りますとともに、「第2の教室」であるご家庭におきましても、子どもたちの学習支援を引続きよろしく願います。



(裏面にて本日の予定参照)